

国語 第2学年 ことばについて考えよう

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書出版『国語（令和6年度版）』の1月配当を基にした授業案。教材本文・台詞・挿絵は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

音や動き、感じを表す言葉を集めて、身近な出来事を詳しく書く。擬音語や擬態語を文に飾りとして足す前に、どの様子を伝えたいのかと結び付けて選ぶ。単元の終わりに残すのは、様子が伝わる文カード。出来事と様子の言葉を書き、友達が思い浮かべた動きが自分の意図と合うか確かめる。教材についての感想に加え、どの言葉をどう捉えたかが見える記録にする。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第1学年及び第2学年〕〔知識及び技能〕(1)オ	オ 身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。
〔第1学年及び第2学年〕B書くこと(1)ウ	ウ 語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。

単元の目標

身近な音や動き、様子を表す語句を増やし、文の中で使える。語と語の続き方に気を付け、様子が分かるように自分の文を書き表せる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①身近な音や動き、様子を表す語句を増やし、文の中で使っている。 （〔知識及び技能〕(1)オ）	①「書くこと」において、語と語の続き方に気を付け、様子が分かるように自分の文を書き表している。 （B(1)ウ）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

単元の流れ

光村図書出版の年間指導計画による全4時間（知・技①、書③）。総時数は出典に従い、各時間の活動と本時の選定は本案の提案として組んでいる。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○身近な動きや音を表す言葉を集め、表す様子の違いを話す。	学習状況を見て支援する。
第2次	2	○自分の経験を選び、様子の言葉を入れた短い文を書く。	知①（語句や内容の整理）
	3 （本時）	○文を読み合い、友達が思い浮かべた様子を聞いて言葉を選び直す。	思①（発言・学習記録）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第3次	4	○文カードを仕上げ、様子の言葉を加えて伝わるようになったことを話す。	態①（学習前後の記録・振り返り）



本時の案

本時の目標：語と語の続き方に気を付け、様子が分かるように自分の文を書き表せる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （ 分）	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「この言葉を入れると、どんな動きや音が伝わりますか。自分が伝えたい様子に合っていますか」 【めあて】音や動き、感じを表す言葉を集めて、身近な出来事を詳しく書く。 〈予想される児童の反応〉 ・ ゆっくりした動きと急いだ動きでは言葉が異なる。	本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 （ 分）	○「この言葉を入れると、どんな動きや音が伝わりますか。自分が伝えたい様子に合っていますか」 自分が見た音や動きを思い出し、様子を表す語句を選んで文を書く。友達に読んでもらい、どんな様子が伝わったか聞く。語と語の続き方を声に出して確かめ、伝えなかった様子に合う文へ直す。 〈予想される児童の反応〉 ・ ゆっくりした動きと急いだ動きでは言葉が異なる。 ・ 同じ雨でも音の感じが異なる。 ・ 言葉を入れる場所を変えると、何の様子が分かりにくくなる。	教師の動作や身近な音を言葉にして比べる。誰が何をした文を先に確かめ、様子の言葉をどこに入れるか声に出して試す。音が聞こえにくい児童には動きや視覚の例も用意する。 想定する難しさ：思い付いた音の言葉の意味を考えずに並べる。何の様子が伝わらない文になる。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 語と語の続き方に気を付け、様子が分かるように自分の文を書き表している。（様子を表す文・読み返して直した箇所）
まとめ （ 分）	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・ 友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・ 言葉を入れる場所を変えると、何の様子が分かりにくくなる。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って自分の表し方を確かめる。 ◎態①（学習前後の記録と、見直した理由）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「この言葉を入れると、どんな動きや音が伝わりますか。自分が伝えたい様子に合っていますか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを

囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

つまづきやすい所と手当て

難しさとして、思い付いた音の言葉の意味を考えずに並べる。何の様子か伝わらない文になる。この場合は、教師の動作や身近な音を言葉にして比べる。誰が何をした文を先に確かめ、様子の言葉をどこに入れるか声に出して試す。音が聞こえにくい児童には動きや視覚の例も用意する。おおむね満足できる状況は、語と語の続き方に気を付け、様子が分かるように自分の文を書き表しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

プリントの案

単元の学習メモ

様子が伝わる文カード。出来事と様子の言葉を書き、友達が思い浮かべた動きが自分の意図と合うか確かめる。教科書の文章・図は印刷せず、自分で確かめた箇所の見出しや、自分の言葉で内容を記す欄にする。

交流と見直しの記録

交流前の自分の考え、友達が伝えた言葉、その後の自分の考え、変えた又は残した理由を並べる。友達の考えに合わせることを求めず、判断の理由が分かるようにする。

出典：光村図書出版 年間指導計画。教材名・配当時数・時期・重点項目の出典。年間指導計画例 Excel（2年）「2年下巻」90行目（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/1916261d-d388-44ac-af42-3aa7e13b6b11/368）／文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）。原文は手元の公式表の写しと照合。

（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語。評価規準の観点と記録の考え方。

（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

